

第2章 地区別のワークショップの開催概要等

2-1 昭和地区

(1) 開催概要

全3回開催した。各回の開催概要は以下のとおりである。

	開催日時	参加人数	検討内容
第1回	6月 9日(金) PM6:30~PM8:30 場所:袖ヶ浦市役所	13人	○ 昭和地区の良い、残したい景色・風景の抽出 ○ 昭和地区の良くない景色・まち並みの課題の抽出
第2回	9月 14日(木) PM6:30~PM8:30 場所:袖ヶ浦市役所	14人	○ 取り組みの方向性(対象地、具体的方策、主体、目標年)の検討 ○ 重点的な取り組み(具体的施策、主体、目標年)の検討
第3回	12月 8日(金) PM6:30~PM8:00 場所:袖ヶ浦市役所	10人	○ 景観特性・課題・方針の確認 ○ 来年度の社会実験の内容の検討 ○ 来年度以降の展開に関する投げかけ



ワークショップの様子

(2) 検討結果

ワークショップの検討結果として、以下のように景観特性や景観形成上の課題、取り組みの方向性がまとまった。

①景観特性及び景観上の課題

〈景観特性〉

- ・ 袖ヶ浦駅から富士山が眺められる。
- ・ 浮戸川には、シジミ、メダカ、カメなどがたくさんいた。現在は鯉がたくさんいる。
- ・ 浮戸川では、年3回、清掃活動がされている。
- ・ 奈良輪境川には、タナゴが棲んでいる。
- ・ 平成通りから富士山が見られる。
- ・ 福王神社の12月の提灯飾りはとてもよい。 など

〈景観上の課題〉

- ・ 袖ヶ浦駅は、市役所のある駅としては寂しい。
- ・ 浮戸川の下流は水が汚い。川底が汚れている。
- ・ 浮戸川の側道が遊歩道として整備されていない。
- ・ 平成通り、昭和通りに雑草が生えている。照明が暗い。 など

②取り組みの方向性

- ・ 袖ヶ浦駅前の景観整備（駅前通り、駅から市役所までの通り）を推進する。
- ・ 地域の景観活動に対して市が援助することを検討する。
- ・ 率土神社、坂戸神社、福王神社などの拠点となる景観資源をまわる散策路整備を推進する。
- ・ 河川沿いの整備（植栽を植える、ごみ拾いなどの美化活動）を推進する。
- ・ 通りの景観整備（街路樹を植える、沿道に花を整備する）を推進する。

③重点的な取り組み(案)

重点的に取り組む内容として、以下のようにまとめた。

袖ヶ浦駅南側：シンボルツリー、プランター等の設置／ライトアップ等の演出／ごみ拾い、草刈り／休憩場所の整備／汚い、イメージの悪い場所の美化

浮戸川、奈良輪境川：河川整備／河川沿いの植樹／ごみ拾い、草刈り

平成通り、昭和通り：事業計画等への景観の提案／街路樹、桜並木、植樹帯の維持管理／眺望ポイントの整備／眺望の確保

散策路ネットワークづくり：散策ルートづくり

④社会実験（案）

①～③を踏まえ、来年度実験的に取り組む内容（案）を以下のとおりとした。

1. 社会実験のねらい

- 実験的に沿道に花を置いて、確認しながら現地を歩く
- まちの景観上の特性・課題等を確認し、景観まちづくりに取り組む場所・内容の具体的候補を出す

2. 実施場所

袖ヶ浦駅～袖ヶ浦駅前通り



3. 実施概要

<集合場所> 現地または袖ヶ浦市役所

<タイムスケジュール>

約 5分 実施スケジュール・内容の説明、注意事項等の説明

60～90分 景観上良い場所、改善する必要がある場所を、各自で歩いて確認する。
チェックした場所は地図記入と写真撮影をしてもらう。

約 60分 市役所に戻り、プロジェクター（写真）を使いながら各自発表をする。

2-2 長浦地区

(1) 開催概要

全3回開催した。各回の開催概要は以下のとおりである。

	開催日時	参加人数	検討内容
第1回	7月10日(月) PM6:00~PM8:00 場所:長浦公民館	13人	○長浦地区の良い、残したい景色・風景をさがす。 ○長浦地区の良くない景色・まち並みの課題をさがす。
第2回	9月19日(火) PM6:00~PM8:00 場所:長浦公民館	13人	○ 取り組みの方向性(対象地、具体的方策、主体、目標年)の検討 ○ 重点的な取り組み(具体的施策、主体、目標年)の検討
第3回	11月27日(月) PM6:00~PM7:30 場所:長浦公民館	12人	○ 景観特性・課題・方針の確認 ○ 来年度の社会実験の内容の検討 ○ 来年度以降の展開に関する投げかけ



ワークショップの様子

(2) 検討結果

ワークショップの検討結果として、以下のように景観特性や景観形成上の課題、取り組みの方向性がまとまった。

①景観特性及び景観上の課題

〈景観特性〉

- ・ 久保田地先（浜宿団地付近）では、ボランティアで整備を進めている「自然と歴史の散歩道」がある。
- ・ 長浦駅前通りの坂の上から、東京湾、臨海部が望める。

〈景観上の課題〉

- ・ 長浦駅には大きく目立つ駐輪場がある。
- ・ 長浦駅通りと平成通りのT字路には、看板が乱立している。
- ・ 蔵波川の水質改善、親水性の向上が必要である。
- ・ 工業地帯の赤白横縞の煙突の色が周りから突出している。
- ・ 眺望の確保をする。

②取り組みの方向性

- ・長浦駅からさつき台病院までの街路樹やさつき台病院と平成通りのT字路の看板の集約などの整った景観整備の取り組みを推進する。
- ・郷土カルタづくりなどにより、袖ヶ浦の歴史や文化、名所等を広く伝える方策を検討する。
- ・散策路づくりなどにより、美しい風景の現地を見てもらうことで、袖ヶ浦市の良さを確認してもらう方策を検討する。
- ・袖ヶ浦の良さを伝える取り組みを推進する。
- ・草刈りやサインづくりなど行政からの支援策を検討する。
- ・蔵波川に下りられるような親水性のある河川整備の取り組みを推進する。

③重点的取り組み

重点的に取り組む内容として、以下のようにまとめた。

駅前からさつき台病院までの道：屋外広告物対策／統一性のある街灯・防犯灯／電線地中化、街路樹／植樹帯の維持管理／事業計画等への景観の提案（舗装、街灯など）

蔵波川：散策路・親水性の向上／ごみ拾い、草刈り

工業地帯：煙突を景観に配慮した色へ変更

散策路ネットワーク：散策ルートづくり

④社会実験（案）

①～③を踏まえ、来年度実験的に取り組む内容（案）を以下のとおりとした。

1. 社会実験のねらい

- 実験的に沿道に花を置いて、確認しながら現地を歩く
- 景観上の特性・課題等を確認し、景観まちづくりに取り組む場所・内容の具体的候補を出す

2. 実施場所

長浦駅前通り（長浦駅～平成通り）



3. 実施概要

<集合場所>長浦駅前自治会館

<タイムスケジュール>

約 5分 実施スケジュール・内容の説明、注意事項等の説明

60～90分 景観上良い場所、改善する必要がある場所を、各自で歩いて確認する。
チェックした場所は地図記入と写真撮影をしてもらいます。

約 60分 自治会館に戻り、プロジェクター（写真）を使いながら各自発表をする。

2-3 根形地区

(1) 開催概要

全3回開催した。各回の開催概要は以下のとおりである。

	開催日時	参加人数	検討内容
第1回	6月23日(金) PM7:00~PM9:00 場所:根形公民館	13人	○根形地区の良い、残したい景色・風景をさがす。 ○根形地区の良くない景色・まち並みの課題をさがす。
第2回	9月22日(金) PM7:00~PM9:00 場所:根形公民館	12人	○ 取り組みの方向性(対象地、具体的方策、主体、目標年)の検討 ○ 重点的な取り組み(具体的施策、主体、目標年)の検討
第3回	12月7日(金) PM6:30~PM8:00 場所:根形公民館	9人	○ 景観特性・課題・方針の確認 ○ 来年度の社会実験の内容の検討 ○ 来年度以降の展開に関する投げかけ



ワークショップの様子

(2) 検討結果

ワークショップの検討結果として、以下のように景観特性や景観形成上の課題、取り組みの方向性がまとまった。

①景観特性及び景観上の課題

〈景観特性〉

- ・ 広域農道から広がりのある田園風景、富士山、鹿野山が望める。
- ・ 広域農道に、コスモス、ポピーなどを各自治会が栽培していてきれい。
- ・ 浮戸川は、魚の産卵場があり昔しじみがいたなど自然豊かな場所である。
- ・ 浮戸川沿いに桜が植えられている。
- ・ 袖ヶ浦公園では、袖ヶ浦公園まつりが開催される。
- ・ 袖ヶ浦公園は、渡り鳥が来るなど自然豊かな公園であり、県外からも多くの人が訪れている。

〈景観上の課題〉

- ・ 広域農道の沿道整備が必要である。(四季を通して花の整備、除草など)
- ・ 浮戸川の親水性向上が必要である。
- ・ 袖ヶ浦公園上池の東西に不法投棄がある。

②取り組みの方向性

- ・ 農耕機の通行が確保できれば桜を植えるのもよいだろう。
- ・ 由緒ある神社などなど隠れた景観資源に関する情報発信を推進する。
- ・ 各地区で、すでに清掃活動や花植えをしており、今の活動を継続・発展させる。
- ・ 浮戸川と広域農道の両側を草刈するなど、統一感を持たせた景観形成を推進する。
- ・ 大勢の人が見て楽しんでくれる所から活動を広める。
- ・ 散策路づくりなど子どもの遊び場となる場所は、子どもの意見も取り入れながらすすめることを推進する。

③重点的取り組み

重点的に取り組む内容として、以下のようにまとまった。

フラワーライン：街路樹、桜並木、植樹帯の維持管理／眺望ポイントの整備／眺望の確保／事業計画等への景観の提案

浮戸川：河川整備／散策路整備、親水性の向上／ごみ拾い、草刈り

散策路ネットワーク：散策ルートづくり

④社会実験（案）

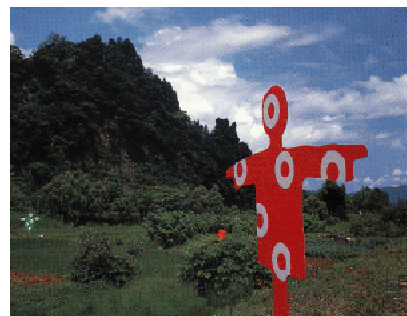
①～③を踏まえ、来年度実験的に取り組む内容（案）を以下のとおりとした。

1. 社会実験のねらい

- 農村の魅力を改めて再発見、再確認する（アート、花植えなど）
- 普段何気なく見ている、浮戸川の豊かな水環境それに伴う豊かな動植物環境（生態系）を確認する

2. 開催場所

浮戸川、フラワーライン沿道もしくは田畑（地主との交渉次第）



3. 実施概要

<集合場所>現地もしくは根形公民館

<具体的内容>

- ・ 浮戸川沿いにかかしを置き（花を植え）、浮戸川及びその周辺の景観づくりをする。
- ・ 浮戸川沿いを実際に歩き、景観・散策上の良い点、問題点などを確認する。

<タイムスケジュール>

- 約 10分 実施内容の説明、注意事項等の説明
- 約 60～90分 かかしの設置（花の飾り付け）、散策
- 約 30分 意見交換



2-4 平岡地区

(1) 開催概要

全3回開催した。各回の開催概要は以下のとおりである。

	開催日時	参加人数	検討内容
第1回	6月 2日(金) PM7:00~PM9:00 場所:平岡公民館	19人	○平岡地区の良い、残したい景色・風景をさがす。 ○平岡地区の良くない景色・まち並みの課題をさがす。
第2回	9月 8日(金) PM7:00~PM9:00 場所:平岡公民館	19人	○ 取り組みの方向性(対象地、具体的方策、主体、目標年)の検討 ○ 重点的な取り組み(具体的施策、主体、目標年)の検討
第3回	12月 1日(金) PM6:30~PM8:00 場所:平岡公民館	13人	○ 景観特性・課題・方針の確認 ○ 来年度の社会実験の内容の検討 ○ 来年度以降の展開に関する投げかけ



ワークショップの様子

(2) 検討結果

ワークショップの検討結果として、以下のように景観特性や景観形成上の課題、取り組みの方向性がまとまった。

①景観特性及び景観上の課題

〈景観特性〉

- ・ 松川ではカワセミやサンショウウオが見られる。
- ・ 広域農道から、広がりのある田園風景、富士山、木更津の花火が望める。
- ・ ドイツ村から東京湾、富士山が望める。
- ・ ドイツ村は地域のランドマークとなっている。
- ・ 里山、谷津田には豊かな自然景観が残っている。

〈景観上の課題〉

- ・ 松川の親水性の向上が必要である。
- ・ 松川にかかる橋の改修を考える必要がある。
- ・ ドイツ村への通りをアプローチ道路として整備する必要がある。
- ・ 山林の整備を行う必要がある。

②取り組みの方向性

- ・ まずはごみのない、きれいなまちとするため、市民の意識改革を推進する。
- ・ 松川は様々な橋や眺望ポイントがあり、また、洪水対策事業計画等もあることから重点的に整備する場所の1つとする。
- ・ ドイツ村への来訪者を、休耕田を利用した観光農園や里山などへその他の地域へ呼び込む仕掛けづくりを推進する。
- ・ 広域農道沿いの田園や樹林地の谷津田などの自然景観の保全を推進する。
- ・ ドイツ村周辺等の散策路ネットワークづくりを推進する。

③重点的取り組み

重点的に取り組む内容として、以下のようにまとめた。

地区全体：ごみ拾い、草刈り

松川：事業計画等への景観の提案／ごみ拾い、草刈り／水質改善、眺望の確保、橋の整備

広域農道：事業計画等への景観の提案／街路樹、桜並木、植樹帯の維持管理／眺望ポイントの整備／眺望の確保

散策路ネットワーク：散策ルートづくり

④社会実験(案)

①～③を踏まえ、来年度実験的に取り組む内容(案)を以下のとおりとした。

1. 実施のねらい

- 農村の魅力を改めて再発見、再確認する
- 普段何気なく見ている、松川の豊かな水環境や豊かな動植物環境(生態系)に気付いてもらう

2. 実施場所

松川(ふるさと川事業により護岸整備された親水護岸を想定)



3. 実施概要

<集合場所> 現地もしくは平岡公民館

<タイムスケジュール>

約 10分 実施内容の説明、注意事項等の説明

60～90分 飾り付けの準備、飾り付け

約 30分 意見交換



2-5 中富地区

(1) 開催概要

全3回開催した。各回の開催概要は以下のとおりである。

	開催日時	参加人数	検討内容
第1回	6月 3日(土) PM2:00~PM4:00 場所:平川公民館	12人	○ 中富地区の良い、残したい景色・風景をさがす。 ○ 中富地区の良くない景色・まち並みの課題をさがす。
第2回	9月 1日(金) PM7:00~PM9:00 場所:平川公民館	9人	○ 取り組みの方向性(対象地、具体的方策、主体、目標年)の検討 ○ 重点的な取り組み(具体的施策、主体、目標年)の検討
第3回	12月 2日(土) PM6:00~PM7:30 場所:平川公民館	10人	○ 景観特性・課題・方針の確認 ○ 来年度の社会実験の内容の検討 ○ 来年度以降の展開に関する投げかけ



ワークショップの様子

(2) 検討結果

ワークショップの検討結果として、以下のように景観特性や景観形成上の課題、取り組みの方向性がまとまった。

①景観特性及び景観上の課題

〈景観特性〉

- ・ 小櫃川でカワセミが見られる。
- ・ 小櫃川から夕日の眺めが望める。
- ・ 小櫃川ビオトープづくりをボランティアにより行われている。
- ・ 大竹神社周辺には谷津や里山などの豊かな自然環境が残っている。
- ・ 横田駅北側の田園にはカルガモ、チョウゲンボウ、アマサギなどが見られる豊かな自然景観が残っている。
- ・ 君津平川線に桜並木が続いている。
- ・ 君津平川線からの出年風景の眺めがよい。
- ・ 富川橋からの眺望がよい。

〈景観上の課題〉

- ・ 小櫃川の親水性の向上、水質改善が必要である。河川敷の整備、利活用が必要である。
- ・ 君津平川線の街路の整備、維持管理が必要である。

②取り組みの方向性

- ・小櫃川の河川沿い整備を推進する。
- ・通りをきれいにする、眺めがよい場所を確保するなど、歩いて、見て、楽しい通り（散策路）づくりを推進する。
- ・県の協力を得て整備している小櫃川河川敷のビオトープは、憩いの場所、子どもたちの環境教育の場として利用が想定される。景観拠点として位置付けていく。
- ・君津平川線は街路樹の整備がされてよいが、一方で、横の通りから進入する車が分かりづらく危険な場合もある。街路樹の維持管理について、十分な検討を行う。
- ・まず地区を歩いて、眺望ポイント、散策ルートなど確認作業を進める。
- ・里山にはホテルやシジミの残る場所もあり、これらの自然景観の保全を推進する。

③重点的取り組み

重点的に取り組む内容として、以下のようにまとめた。

小櫃川：ビオトープづくり／通学路、サイクリングロード、河川敷の整備／ごみ拾い、草刈り／眺望ポイントの整備／眺望の確保／いわれ等の周知／水質改善

大竹神社周辺：蛍、しじみの残る自然環境を残す／もみの木の巨木や金木犀等の維持管理

君津平川線：事業計画等への景観の提案／街路樹、植樹帯の維持管理／眺望ポイントの整備／眺望の確保

散策路ネットワークづくり：散策ルートづくり

④社会実験(案)

①～③を踏まえ、来年度実験的に取り組む内容（案）を以下のとおりとした。

1. 実施のねらい

○小櫃川（周辺の景観）の魅力を再発見、再確認する

○普段何気なく見ている、小櫃川の豊かな水環境それに伴う豊かな動植物環境（生態系）に気付いてもらう

2. 対象地

小櫃川の川沿い（起終点：百目木公園）



3. 実施概要

<集合場所>現地もしくは中富公民館

<具体的内容>

- ・小櫃川沿いに花を植え、小櫃川の景観を良くする。
- ・小櫃川沿いを実際に歩き、景観・散策上の良い点、問題点などを確認する。

<タイムスケジュール>

約 10分 実施内容の説明、注意事項等の説明

約 60～90分 花の飾り付け、散策

約 30分 意見交換

2-6 合同ワークショップ

地区別に開催したワークショップを最後に、第4回ワークショップとして合同で開催した。各地区の代表者(各2名)にお願いし、地区別ワークショップの報告を行った。

(1) 開催概要

日時	平成19年2月17日(土曜日)
場所	長浦公民館 1階多目的室
時間	午後2時～4時半
次第	1. 開会 2. 事務局あいさつ 3. 袖ヶ浦市景観まちづくりについて(袖ヶ浦市からの説明) 4. 基調講演(検討委員会委員長：宮脇助教授による講演) 5. パネルディスカッション(各地区代表者の発表、意見交換) 6. 閉会



ワークショップの様子

(2) パネルディスカッションの結果

①各地区の発表内容

発表内容は、各地区の検討結果の報告(「良い、今後残したいと感じる景色・風景」「良くないと感じる景色、風景」「景観まちづくりの目標及び方針」「景観形成上の基本施策」「重点的な取り組み」「来年度以降の取り組み」と、その他、以下の内容が発表された。

昭和地区：他都市の事例も参考にしながら、袖ヶ浦駅南側にはぜひ力を入れてやっていきたい。

長浦地区：自主的に栃木市の視察にいった。袖ヶ浦市は、栃木市のように、残していきたい古い街並みなど、目的がはっきりしていない。今後はより具体的な目的をもって、景観づくりに取り組んでいきたい。

根形地区：現在、広域農道で取り組んでいる花植えなどをより充実させていきたい。

平岡地区：ドイツ村と協力して、観光客も取り込んでいけるような景観づくりを検討していきたい。

中富地区：現在、小櫃川河川敷でボランティアによるビオトープ作りを行っている。中川小学校の授業にも利用しており、より大きな活動にしていきたい。

②その他、住民からの主な意見

- ・ 公共施設から積極的に景観づくりに取り組んでもらいたい。
- ・ 色については、再来年度以降数年かけてじっくり取り組んでいきたい。
- ・ 地権者との折衝など、住民だけでできないことは行政から支援してもらいたい。

③総括

以下、総括を示す。

- ・ 行政は PR 活動、条例化等の検討を行い、計画が絵に描いた餅にならないようにしてもらいたい。
- ・ 景観基本計画は、来年度見直しする都市計画マスタープランと併せて検討をすすめる。
- ・ なるべく各地区の活動がオープンに見られる場をつくる、今回のように合同発表会を開催するなど地区の交流がはかれる機会を来年度以降も設ける。
- ・ 色については、再来年度以降数年掛けてじっくり取り組む。

また、学識経験者による総括は以下である。

○宮脇先生

- ・ 昨年度のアンケートの結果で、一般の方も子どもからも嫌いな景観で「川や池などが汚れていること」が一番に挙がるなど、水質改善やごみ対策など水に対する意見が多い。そのため、中富地区で行っているビオトープは身近に水面を見せるもので大切なものである。
- ・ 建物つまり、家、集落についての意見が抜けている気がする。景観には建物が大きく関わるものであり、個人個人が自分の家や集落を気にしながら景観づくりに取り組むことが大切である。景観づくりは長くかかるものだが、10年後には変わったなど分かる取り組みを進めてもらいたい。また、企業に意見が言える市民の組織力を強めていくことが大切である。



長浦駅前通り

○前田先生

- ・ 1点目は、長浦地区と昭和地区では、駅前の景観づくりを行うことが重要である。ワークショップでも、駅前は都市基盤整備がされ交通広場が整備されたが、ちょっと違うなと感じている人もいようだ。もっと木を増やしたり、ベンチの素材の検討、駅前の無駄なスペースを市民に開放したりするなどリデザイン、デザインし直すことが必要である。
- ・ 2点目は、根形・平岡・中富地区の豊かな自然資産がある地区への、提案である。豊かな自然景観の写真を写真集としてまとめ、多くの人に周知する。インターネットなど利用すれば全国の方に伝えることができるしよいと思う。
- ・ 3点目は、社会実験を来年度行う際に、企業に訴える、さきほども話の中で出たが、地区の意見を、提言としてまとめることが大切である。工業地帯だけではなく、街中の店舗や駐車場の経営者も含めて提言をしていくことが必要だ。